

調査日:2017年6月15日、7月14日、8月18日(9:00~12:00)

科名	和名	6月	7月	8月
キジ	キジ			1
カモ	コブハクチョウ	32	25	27
	カルガモ	20	16	32
カイツブリ	カイツブリ	38	12	15
ウ	カワウ	86	100	140
サギ	ヨシゴイ		1	
	ゴイサギ	4		2
	アオサギ	6	5	7
	ダイサギ			2
	チュウサギ			1
	コサギ		1	17
クイナ	パン			2
クイナ	オオパン	16	12	9
カモメ	ユリカモメ	1	1	1
タカ	トビ	1	3	2
	ツミ	1		
カワセミ	カワセミ	1	3	1
カラス	ハシボソガラス	2	1	8
ツバメ	ツバメ	4	2	1
セキレイ	ハクセキレイ			3
家禽や外来種	アヒル	1	1	
合計*	20種	212	218	298

*家禽や外来種を除く



オオパンの幼鳥 (6月)



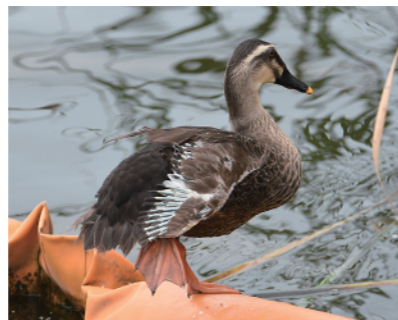
さえざるオオヨシキリ (6月)



水田で餌を探すチュウサギ (7月)



ヨシゴイのオス成鳥 (7月)



換羽中のカルガモ (8月)



集団採餌をするカワウ (8月)



秋になり、カモの飛来
の季節がやってきました！
手賀沼の鳥の数が増えて
いきます。次回の調査結
果もお楽しみに！

あびこ鳥だより

Autumn
2017
【秋号】

ABIKO BIRD MUSEUM LETTER Vol.48



利用案内

- 開館時間 午前9時30分~午後4時30分
- 休館日 月曜日(祝日の場合は翌平日)、館内整理日、年末年始(12/29~1/4)

	区分	個人	団体
入館料 (当日有効)	一般	300円	240円
	高校生・大学生	200円	160円
3館共通入館料 (1か月有効)*	一般	600円	
	高校生・大学生	400円	

・入館料免除の方①70歳以上の方 ②障害者手帳等をお持ちの方(付き添い1名含む)

・中学生以下の方は入館無料

*白樺文学館、杉村楚人冠記念館との共通券

●お問い合わせ:我孫子市鳥の博物館

〒270-1145 千葉県我孫子市高野山 234-3

☎:04-7185-2212 FAX:04-7185-0639



交通案内

JR 我孫子駅南口バス停より市役所経由

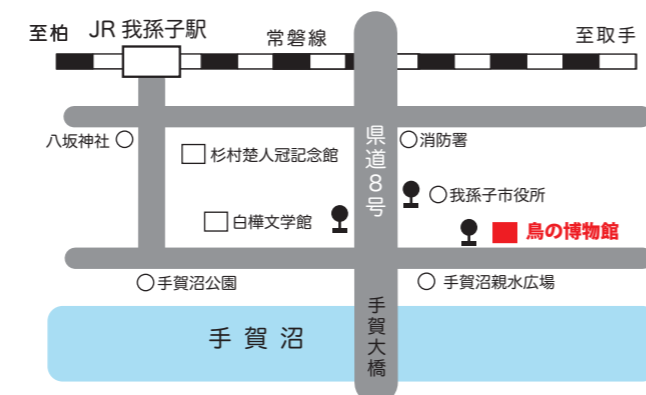
バスで「市役所」下車、徒歩5分

*毎週土日祝日は博物館行きのバスが運行しています

我孫子駅南口バス停より、天王台行きバスで「鳥の博物館」下車

天王台駅南口バス停より、我孫子駅行きバスで「鳥の博物館」下車

自動車利用の方は地図をご覧ください(駐車場無料/大型バス駐車可)



【特集】

絶滅危惧種オガサワラカワラヒワの調査活動

【最新情報】

ジャパンバードフェスティバルが開催されます!

表紙の鳥 カイツブリ

絶滅危惧種オガサワラカワラヒワの調査活動

カワラヒワは、我孫子市でも普通に繁殖し1年中見られる身近な小鳥ですが、本州から遠く離れた小笠原諸島にも分布していることをご存知でしょうか？

小笠原のカワラヒワは、亜種オガサワラカワラヒワという本土とは異なる亜種に分類され、外部形態がわずかに異なります(写真1)。最近の遺伝的な研究からは、別種レベルの差があることが明らかになり、近い将来、種に格上げされる可能性があります。

オガサワラカワラヒワは、かつて小笠原諸島全域に分布していましたが、現在では母島周辺の属島と南硫黄島にしか生息していません。生息数は最大でも400羽程度と見積もられており、環境省のレッドリストでは最も危険度の高い絶滅危惧IA類に指定されています。日本国内のスズメ目の小鳥ではもっとも数の少ないものの一つといえるでしょう。減少の要因ははっきりとは解明されていませんが、木登りが得意な捕食者であるクマネズミの生息している島では繁殖個体群が絶滅していることから、外来哺乳類による捕食が減少の主要な原因であると推測されています。

保全するための情報を集めるために、林野庁の事業でオガサワラカワラヒワの生態調査が行われています。2017年7月に、調査を請け負っている調査会社からの派遣依頼を受け、小笠原諸島の母島に出張しました。母島本島および周囲の属島での生息確認と、標識調査を行いました。今回は渡島した向島、妹島、姉島の全てでオガサワラカワラヒワの生息を確認できました。しかし、標識調査は天候に恵まれず、数羽の標識ができたけにとどまりました。

今後、各島に設置されているセンサーカメラにこれらの個体が写ったり、観察されたりすれば島間での移動が確認できるかもしれません。標識調査によって移動や寿命に関する情報が蓄積されれば、個体数の変化を予測したり、ネズミの根絶を行う島の順番を決めたりするのに役立つでしょう。また、母島本島では成鳥と幼鳥の群れを確認しました(写真2)。近年繁殖成績が芳しくないと言われているので、幼鳥が群れで確認できたことは良いニュースといえるでしょう。

小笠原諸島は成立してから一度も大陸とつながったことのない海洋島と呼ばれる島で、独自性の高い生物が生息しています(写真3)。こうした小さい島では固有な在来の生き物が人間の影響で絶滅の淵に立たされており、外来生物の根絶と在来生態系の再生のための様々な研究や保全活動が現在進行形で行われているのです。

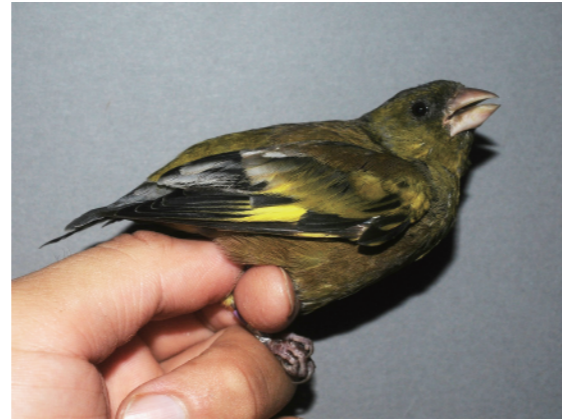


写真1

色足環を装着されたオガサワラカワラヒワの雄成鳥。本土の亜種に比べ、体に対して嘴が大きく、羽色の黄色みが強い。7月 妹島。



写真2

道路に落ちたイネ科植物の種子を食べるオガサワラカワラヒワの幼鳥2羽。7月 母島。



写真3

小笠原群島に固有の鳥、メグロ。父島列島および聳島列島では絶滅し、母島とその周辺のみ分布している。7月 母島。

ジャパンバードフェスティバルが開催されます！

ジャパンバードフェスティバル(Japan Bird Festival/略称:JBF)は、手賀沼周辺で行われる鳥をテーマにしたイベントです。鳥のお絵かきやミニ工作、双眼鏡やスコープの体験、ミニライブやトークショー、小・中学生、高校生が自然観察の成果を発表する環境学会、鳥学講座、バードウォッチングツアー、野鳥撮影体験、スタンプラリー、野鳥の写真展、バードカービング作品展、野鳥関連グッズの販売、全国各地からの自然や野鳥保護団体の展示など「遊ぶ、学ぶ、親しむ」鳥を楽しむ2日間です。今年は11月4日(土)、5日(日)に開催されます。

鳥の博物館では鳥の工作とクイズのほか、JBFの出展団体による講座を2つ企画しています。4日(土)は日本雁を保護する会の呉地正行さんを講師に招き、繁殖地に移入されたキツネによって激減したシジュウカラガンをよみがえらせる取り組みの経緯・成果・課題・教訓についてお話いただきます。5日(日)は世界中から雄大な自然を体験しようとする多くの人が訪れるモンゴルの魅力について、野鳥を中心に、様々な生き物についてお話いただきます。詳細は下表をご覧ください。



鳥の博物館のイベント

日時	イベント	場所	定員(先着)
11月4日(土)	10:00~11:00	鳥の博物館	30名
	13:00~14:00		15名
	13:30~15:30		150名
11月5日(日)	13:30~15:00	アピスタ(我孫子生涯学習センター)	120名
	10:00~11:00	鳥の博物館	30名
	10:30~11:30		50名
	13:00~14:00		15名
13:30~15:30	150名		

*JBF公式ウェブサイト: <http://www.birdfesta.net>

イベント情報

- 展示
 - 第78回企画展「鳥・酉・鶏・とり」
 - 期間：2017年7月15日(土)~11月26日(日)
 - 場所：博物館2階企画展示室
 - 第79回企画展「友の会展」
 - 期間：2017年12月9日(土)~2018年1月14日(日)
 - 場所：博物館2階企画展示室
- 講演・室内イベント
 - テーマトーク
 - 日時：毎月第2土曜日 13:30~14:15
 - 場所：博物館2階多目的ホール
 - 定員：先着50人(参加無料)
 - 講師：山階鳥類研究所所員
 - *11月はテーマトークなし

- 自然観察会
 - てがたん~自然観察会~
 - 日時：毎月第2土曜日 10:00~12:00(雨天中止)
 - 定員：なし
 - 集合場所：博物館入口(予約不要)
 - あびこ自然観察隊③「晩秋の手賀川観察会」
 - 日時：11月23日(木・祝) 9:00~12:00
 - 集合場所：新木駅南口
 - 内容：冬の農地にやってくる鳥を観察します
 - 定員：30人(小学3年生以下は要保護者同伴)
 - 申込み：鳥の博物館 04-7185-2212
 - *11/1より電話申し込み開始
- *自然観察会は高校生以上の方は保険料100円がかかります
*館内で行うイベントは参加無料でも入館料が必要です

2017年10月~12月